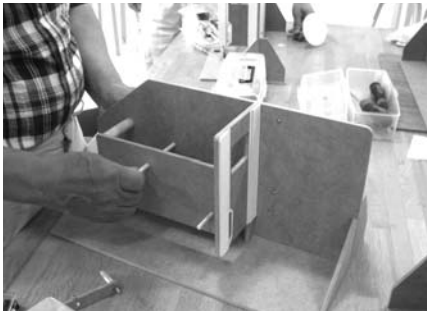


# 市民活動（ボランティア）団体を紹介します！！

今回は「おもちゃの修理」や「ものづくり」を通じて子どもたちにいろいろなことを伝えるため日夜奮闘している「羽村市おもちゃ病院ボランティア ねじまわし」の皆さんの活動を紹介します。

## おもちゃ病院ボランティア ねじまわしとは

おもちゃ病院は全国的に展開されている活動の一つで、「羽村市おもちゃ病院ボランティア ねじまわし」は平成12年、「おもちゃの修理を通じて地域社会に貢献し、異世代との交流をはかり生涯学習の一つとして豊かな人生を送ること」を目的に発足しました。その後、おもちゃ病院を活動の軸とし、幼稚園、児童館、小学校などで「手作りおもちゃ教室」「工作教室」、平成24年からは「理科好きになる工作塾」などを展開し、年間千人を超える子どもたちの夢を育んでいます。その活動の根底には何があるのでしょうか。



今回製作する工作物の一つ「映写機」

## Q.発足のきっかけは？

仕事や趣味で培った技量を活かし、自分たちの生きがいづくりが何か社会貢献につながるのではないだろうかと考えたことが発足のきっかけです。

## Q.この活動を通じて子どもたちに何を伝えたいと考えていますか？

子どもたち一人あたりのおもちゃの保有台数は増えているのに修理の件数は減っている。現代の環境では物を修理して使うという考えが薄くなってきているのかもしれない。稀に一つのおもちゃを三世代で大事に使っている人もいますが、そういう昔ながらの良さにも気付いてもらいたいし、子どもたちに「物を大切にすることと同時に」「物づくりのすばらしさ・楽しさ」を味わってもらいたい。

## Q.ボランティア活動を続けられる秘訣はなんですか？

ボランティア活動、すなわち社会貢献活動と思われるが、社会貢献は結果であって、まずは会員が楽しく続けられることが大切。物を作ったり、直したりす

ることが何よりも好きで集まっているので、それを人に還元することで結果的に社会貢献につながれば良いと思っている。自発的な行動でないとボランティアは続かない。



ゆとろぎでの「理科好きになる工作塾」の様子

## Q.ボランティア活動の難しい点はどこですか？

会員の高齢化に伴い、会員数が減ってきている。しかしボランティア団体は外力によって成長するものではなく、参加する人たちの自発的な気持ち、グループの内からの力によって、大きく成長していかなければ発展しない。他団体との協働を考えたこともあったが、現実的には難しい側面があるし、それぞれ独自性を持ちたいと考える団体もある。それをどうやって結びつけ

## Q.今後の課題では。今後ボランティアを活性化していくには？

これからの社会はボランティアを望む人とボランティアをした人が直接結びつけられるようなシステム・コーディネートが必要ではないか。そういう仕組みづくりや先導を行政などにしていただければと思う。社会にボランティア活動が浸透すれば行政の役割が減ることになるが、それが本来求められる姿であって、今後の新しい社会のあり方なのでは。将来的にはボランティアで成り立つ社会がこの羽村から発信できればすばらしいと思う。

## Q.今後の活動について

まずは今の事業を継続できるようにすること。その上では会員を増やしていくためにはおもちゃの修理以外の分野でも出来ることがあれば何でも挑戦していきたいと考えている。

— 今後のまちづくりを支えていくうえで町内会・自治会の活動やボランティア活動は欠かせない底力になるはず。 —